

一の坂〔木津の南半里にあり、是山城大和の国境なり〕念仏石〔一の坂の南にあり、土人士講座といふ。南都大仏殿再建のとき、法然上人の導師にて堂供養ありしとき、此所にて説法し念仏の功德をためし見給ふ石なり〕狛里〔上狛は木津川を隔て北十町ばかりにあり、下狛此所より乾にして木津川の西なり。むかし百濟高麗より惠辨惠宗といふ貳人の僧来りて此里に住せしなり、高麗の文字を狛にかへて所の名とせり。一説には百濟の訓を一字につくり、偏は才旁は百とし、狛と呼ばしむるとぞ〕

拾遺 音にきくこまの渡りの瓜作りとなりかくなりなるこゝろ哉 朝 光

歌集 やまとゝもからとも見えず山城の狛野に咲るなでしこの花 兼 慶

泉橋寺〔此里の南にあり。本尊地藏菩薩は惠心の作なり、門外に石地藏あり、行基の作なり。太平記に、古津の石地藏といふは是なり〕高麗寺の旧蹟〔上狛の東に在り、野中に礎遺れり。むかし用明帝の勅にして唐僧惠辨住し寺なり〕